



コロナウイルス 感染予防に係わる注意点について

- 西日本防災システム

御注意!



コロナウイルスの感染予防対策が進む中で、店舗などでよく見られる **透明シート** があります。この取り付け方で**消防法**に絡む不具合が生じる可能性があります。

火の用心

NBS

御注意いただきたいことをお知らせいたします

POINT!

自動火災報知設備やスプリンクラー消火設備など **消防用設備等** が設置されている防火対象物限定です!



注意!

透明シートもカーテンも消防法では**壁**として扱われる場合があります。

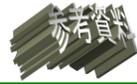
様々なケースを 消火設備、警報設備の双方で考えて見ます。



NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<https://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ



コロナウイルス 感染予防に係わる注意点について

- 西日本防災システム



透明シートはその遮断する効果を出すため天井に取り付けられ、比較的低い位置まで密閉・遮断を目的として設置されています。

その結果自動火災報知設備とスプリンクラー消火設備の設置に注意が必要となります。

火の用心

NBS

注意点



天井から設置の場合は壁扱いとなります

横若しくは上部に空間がある場合は壁扱いではありません

上部に空間がある場合壁扱いにはなりません



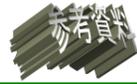
株式会社 西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<https://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ



コロナウイルス 感染予防に係わる注意点について

- 西日本防災システム



壁扱いとなった場合

POINT

透明シートで囲われて閉鎖空間が出来た場合

自動火災報知設備

感知器の種別によりその長さが40センチ、60センチを超える場合は壁となります。

感知器の増設が必要となります

スプリンクラー消火設備

シートより散水傷害、感知傷害となる場合は

ヘッドの増設、移設が必要となります



恒久的なものではなく、このコロナ対策期間が終了すれば現状復帰できることを所轄消防署に相談して頂ければ、良い方法を提示される可能性があります。



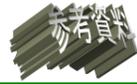
株式会社 西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<https://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ



コロナウイルス 感染予防に係わる注意点について - 西日本防災システム

御注意!

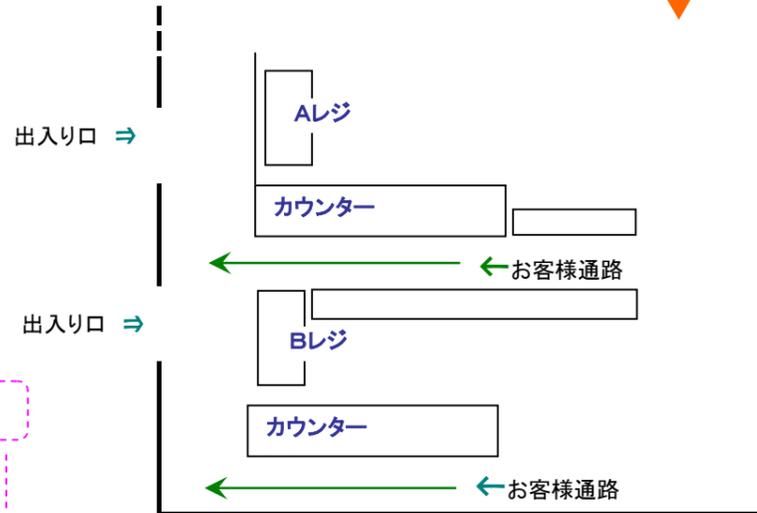
図にしますと こうなります



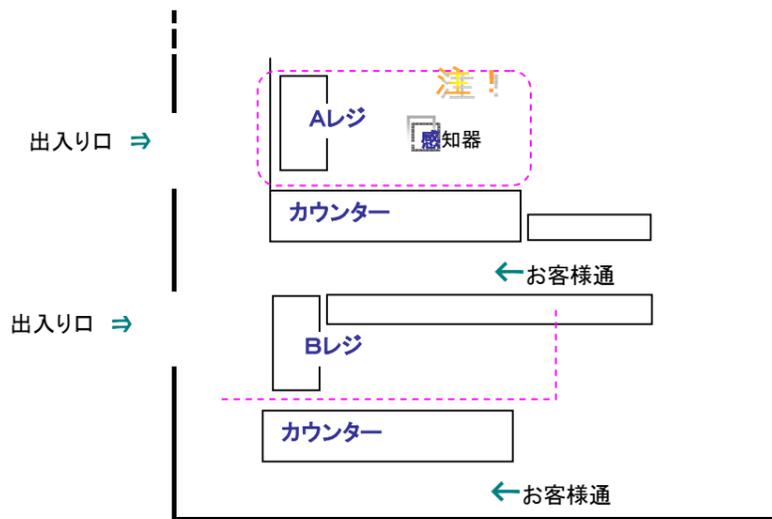
自動火災報知設備

透明シート

透明シート



このようなレジ回りに天井までの透明シートを取り付けた場合



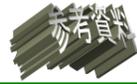
Aレジ回り

感知器の増設が必要です

Bレジ回り

増設の必要はありません





コロナウイルス 感染予防に係わる注意点について

- 西日本防災システム

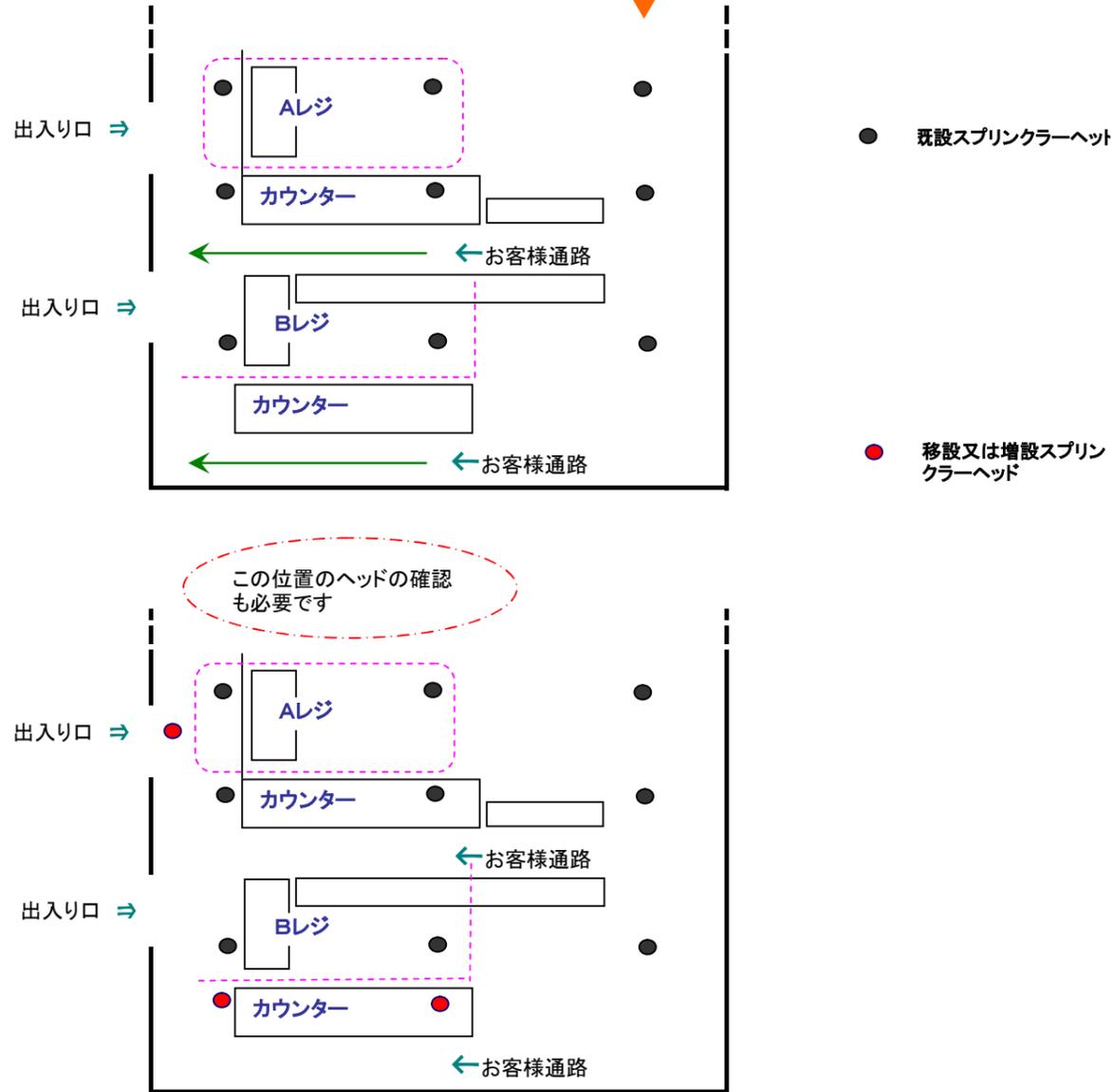
御注意!

困りますと こうなります



スプリンクラー消火設備

このようなレジ回りに天井までの透明シートを取り付けた場合



火の用心

現場の既設ヘッドとの位置関係で、増設か移設かを判断します。

さらに増設が必要と判断された場合は、許容パイプサイズがありますので、天井内のスプリンクラー配管のサイズと既設ヘッドの設置個数の調査が必要となります。



株式会社 西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<https://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ



御注意!

NBS
119

火の用心

素材

透明シートで最後に御注意頂きたいのが、**素材** です。様々な材質のものがあり、特に燃え易い素材でできた

シートも多く販売されています。一度着火すると**一気に燃え上がる**可能性があります。

透明シートを設置される場合。その素材まで気にされる方は少ないと思います。基本は

すぐ燃え上がる

と理解してください。



シートに火気は近づけない! を基本にしてください



弊社はこう考えます

現行消防法の規定通りのご説明を致しましたが、このコロナ対策は一過性の災害に類するもので、杓子定規に消防法を当てはめるべきものではないと思います。しかしながら状況は明らかに消防法違反となる状態です。このコロナが収束すれば 増・移設した機器を元通りに復旧する手間などを考慮すれば、この短い期間、従業員全員の火の用心に対する意識を高めることで、乗り切れる可能性はあると信じています。

NBS



株式会社
西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<https://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ